

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明（修正）
家計 動向 関連	良くなっている	タクシー運転手	来客数の動き	・4月は四国八十八箇所周りの仕事が増え、貸し切りの仕事であるため、売上に貢献した。ただ、相変わらず夜飲みに出る人は少なく、同業他社はさほど良くない。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月の春休み期間は、平日は多くの人でにぎわい、土日も、高速道路料金引下げ効果があり、かなりにぎわった。高知の龍馬ブームで、かなり観光客が入り、飲食店を中心に商店街へ流れ込んできている。
		一般小売店〔菓子〕（総務担当）	お客様の様子	・特売商品や買得感があるものについては、客は積極的に消費している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・野菜価格の高騰により、販売単価は持ち直してきた。果物も、バナナなど一時は一袋98円でないと売れない日もあったが、高くなっても売れている。徐々に元に戻っていくのではないかと期待している。一方で、ディスカウントストアも繁盛しており、客の二極化が鮮明になってきている。
		スーパー（人事）	販売量の動き	・年度が変わり、新生活需要を中心に購買意欲が高まっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・コンビニは、商品に、便利・スピードという付加価値をつけてスーパーやドラッグストアより高く販売しており、景気が悪いと節約の対象になる。最近では、そこに客が戻ってきており、景気回復がみられる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・季節的な要因もあるが、購買意欲のある客が増えている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・季節的に陽気になり、外に出る機会が増えたため、来客数の動きは少しずつ良くなっている。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・来客数は増えてはいないが、販売量が昨年より増えてきた。宿泊数は、道後温泉では横ばいであり、昨年と比べ、2月は少し伸びたが、3～4月はあまり伸びていない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・NHKの大河ドラマに関連した、「土佐・龍馬であい博」の開催で、県外客で賑わっている。これに関連し、観光産業では景気が良くなってきている。しかしまだ、一般企業を含め全体的には景気が回復しているという動きではない。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・比較的高額な商品の問い合わせや加入が増えている。
	通信会社（支店長）	販売量の動き	・販売数が前月と比べ伸びている。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・前年より10%近く、客の入場者数が増えている。特に、個人客が増えている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・4月は来客数が多かった。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数は増えたが、全然買物をする気配はない。やはり皆、懐具合が苦しいようである。
一般小売店〔酒類〕（経営者）		販売量の動き	・NHKの大河ドラマや地元名物の鍋焼きラーメンのPR効果で、街を歩いている観光客数は以前より増えている。しかし、業務店のアルコールの需要には直結していない。	
一般小売店〔書籍〕（営業担当）		販売量の動き	・高額コンサートチケットの売行きが良く、店頭販売の売上は前年並みに持ち直してきた。しかし、外商売上が落ち込んでおり、足を引っ張っている。	
一般小売店〔酒〕（販売担当）		販売量の動き	・取引先の料飲店は客数が減少した。店頭売りもスーパーに流れており、販売数が減っている。	
百貨店（営業担当）		それ以外	・来客数、売上高共に、前年同月を下回った。紳士衣料雑貨、宝飾、美術および呉服等の高額品が特に苦戦し、総じて低調な状況で推移した。	
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・まだ来客数が低調である。高額商品を買う人は増えてきたが、まだ不透明な状況である。		

	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・カード顧客限定の割引セールを行うと、入店客数が増加し割引商品はよく動く。しかし、相変わらず高単価商品の動きが鈍い。また、割引・イベントをしていない平日の落ち込みが大きいので、累計売上は前年を下回っている。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・相変わらず定価品の動きは悪く、赤札を含む販売量でも前年売上を越えることが厳しい状況である。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・単価の下落傾向は止まりつつある。食品では、野菜が高くなっており、その分、販売単価の上昇はある。しかし、その影響で買上点数が減っている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数の減少が続いている。特に、昨年まで集客効果があった特売日での減少が大きく影響している。
	スーパー（企画担当）	それ以外	・気候の影響のため、売筋商品が替わってきている。好調な部門と不調な部門が分かれ始めてきている。
	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・客数、客単価共に前年を下回っている。まだ回復の兆しが見えない。
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・来店客数の前年割れが慢性化しており、横ばいである。
	衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・依然として客単価・販売単価の下落が続いている。客単価は前年比で92%程度、販売単価も前年比で90%程度で推移している。4月は通常正規価格で販売する月だが、競合店の影響でセール価格で販売せざるを得ず、お客様もセール価格でなければ購入しないため、販売客数は維持できて客単価が低下し、売上を維持できていない。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・3月の決算をまずまずの成績で終えて、新年度を迎えたが、販売数は芳しくない。エコカー購入補助金制度を利用した買換えは、行き届いた感がある。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・エコカー購入補助金制度が続く9月までは、現状通り、横ばいで推移するであろう。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・最需要期を過ぎたことで、好調だった動きが一段落するのではないかと懸念されていたが、予想外に受注があった。前年が最悪だったため、売上は前年比の53%増加となった。
	一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客数の動きは相変わらず鈍いが、客単価は、天候不順による野菜価格の高騰分を売価に転嫁したため、前年からの落ち込みが止まった。一方、気温が低いので、飲料販売は前年を大きく下回っている。
	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・個人の国内旅行は、相変わらず「安・近・短」の傾向が続いている。高速道路料金引下げの影響と考えられるが、料金見直しまでは同じ傾向が続くであろう。
	タクシー運転手	単価の動き	・利用客が減少し、単価も横ばいであるため、売上増加に繋がっていない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前から比べて、客単価に変化はない。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・前年同月と比べ、来客頻度の減少により、来客数が減少している。かろうじて客単価が微増したため、前年と同水準の売上を維持している。
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・予算の縮小により、客先の発注ロットが小さい。客先の話によると、競争による低価格の受注が恒常化しており、従業員においても、ペア停止、給与減が実行されているという。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・新築計画から、リフォームや中古住宅、中古マンションに計画を切り替えるケースがある。住宅ローンの審査を懸念し、予算を抑えめに再検討をしている様子である。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・3月から、客数・客単価が更に低迷している。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・3月は、客の動きが少し良くなる気配を感じたが、4月は気温が大きく作用し、寒さや雨で、春・初夏物の売行きが一挙に止まってしまい、相当厳しい状態であった。
	衣料品専門店（副店長）	お客様の様子	・客のクレジットカード支払回数、通常より多くなっている。
	家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・4月に入り、冷蔵庫、洗濯機の販売が増えてきたが、台数は前年に比べ減少している。テレビの販売数量は減少した。
	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・一部のハイブリッド車種の受注残があることから、販売高は良いが、来客数、受注件数が減少している。

		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・季節的には良いシーズンとなったが、最近の悪天候に影響され、予約状況が悪くなっている。前年あるいは3か月前と比較して、少し悪い状況である。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・4月は周年レース開催があり、前月比で19%の増加、前年比で8%増加と売上は好調に推移した。しかし、周年レース開催をもって、正月レースのあった3か月前より売上が3%減少しており、手放して好調とはいえない。
	悪くなっている	その他飲食 [ファースト フード]（経営者）	販売量の動き	・来客数が減少しているため、販売量が減少している。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量が若干増えたように感じる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・LEDメーカーであるが、最近は大変忙しい。当社だけでなく業界全体で、景気はやや良くなってきている。関連する取引先には、設備投資もみられる。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・デイクアセンターなど、民間の老人福祉施設の見積依頼が増えてきており、一部、成約もできた。引き続き、何件かは、かなり高い確率で受注ができそうである。
		通信業（営業担当）	それ以外	・大型スーパー、家電量販店のマネージャー層との会話の中で、「やっと、節約つかれの傾向を感じる」、「リッチな巣籠もり層への施策が効果を出している」などの、販売施策の手応えについて、明るい話題が出るようになってきた。「低価格帯商品や買いやすい商品のみ買う傾向」から、「高価格でも良い商品、欲しい商品なら買う傾向」がやっとみえ始め、儉約する商品がある一方で、高額で我慢していた商品を購入するなど、個人消費にメリハリが見られるようになったという。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・新年度に入り、住宅販売がやや上向いてきている。以前は広告を打っても反応がなかったが、ここ最近は一定の反響がみられる。
変わらない		農林水産業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・現在、価格上昇しているが、長続きしない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原料のパルプ、古紙、重油等の素材関係が、段々と高くなってきている。一方、小売側からは値下げ要請が強いため、思うように売価の改善ができない。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・先行きが非常に悪いと判断して、自主廃業する業者があった。
		通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・依然、企業サイドの購買に対する姿勢は慎重である。導入効果が見えにくい施策には乗らない状況が続いている。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・年度末が終わり、夏場の閑散期に入ろうとしている。ゴールデンウィーク前に集中する広告関係も今年は随分少なかった。定期刊行物については、比較的安定した受注が続いているところと、廃刊などになるところの明暗がはっきりしてきている。
		公認会計士	取引先の様子	・4月の関与先の決算・月次決算を見ると、前年に比べ売上が減少した先が、依然、半数以上を占めている。また、利益面でも、赤字先が約7割を占めている。3か月前も同じ状況であった。
雇用 関連	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-
	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求職者数が、久しぶりに減少した。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・新卒の求人倍率が1.28（リクルート調べ）と学生にとっては厳しい環境である。地元では文系男子を中心に「質の低下」を訴える企業が昨年より多くなった。中央の大手企業志向が強まっているのも一因と考えられる。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・車関係は9月のエコカー購入補助金制度終了に向け積極的な販売を計画している。一方、飲食業は依然低迷しており、もはや体力の限界の様子である。中心街は、夜も人通りが少ない。ただ、医療福祉関係の新施設のオープンがあるのが救いである。
	職業安定所 (職員)	それ以外	・3月の有効求人倍率は0.59倍で、3か月前と同じであった。
	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・雇用調整助成金を活用する各企業において、休業率に変化はない。
	民間職業紹介機関 (所長)	周辺企業の様子	・2～3月に、再就職支援の相談・打診があった。まだまだ余剰人員をかかえている企業が多く、年内に人員整理を実施する予定の企業もある。今年度の採用計画においても、昨年と同様が減員という企業が多い。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・大学にくる求人件数や求人数が芳しくない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-